ニッポンハムグループ：新規D2C事業創出支援

VIDEO TRANSCRIPT

日本ハム株式会社 新規事業推進部 部長 高崎 賢司 氏：「たんぱく質を、もっと自由に。」というような発想の中で、具現化していくっていうのが目指していく姿になっております。D2Cということなので、直接的に消費者の方々とじかにコミュニケーションをとりながら展開していけるというところに、我々としても醍醐味を感じている次第でございます。

日本ハム株式会社 新規事業推進部 リーダー 湯川 智子 氏 ： 弊社の企業理念としまして、「食べる喜び」をテーマにしております。エンタメ事業、ウエルネス事業、エシカル事業の3つで構成されておりまして、Vision2030の「たんぱく質を、もっと自由に。」というテーマを軸に事業を展開しております。Meatfulはたんぱく質の新たな可能性を創出するというテーマで、4つの切り口で商品を提供させていただいております。Table for Allは全ての人に寄り添うというテーマで、食物アレルギーケアをまず第1のテーマとしまして、情報提供のプラットフォームとして商品と情報をご提供しております。

アクセンチュア株式会社 Accenture Song マネジング・ディレクター 加藤 圭介： 目指したのは大きく2つで、1つは「新しい顧客層の獲得」、もう1つは「顧客との新しい関係構築」です。これまでニッポンハムさんが取り込んでこられた顧客層とはちょっと違う、新しいカテゴリーだったり、健康志向の方々だったり、そういった方へのアプローチが行えるようになったということが1つ目。2つ目の「顧客との新しい関係構築」について言うと、顧客とダイレクトに繋がることで既存の流通構造に左右されず、独自のブランディングや体験そしてパーソナライズされたコミュニケーションを継続的に行うことができるようになりました。顧客体験を軸に、新しい商品を生み出し、ブランディング、マーケティング、プラットフォームやオペレーション、そういったものをEnd-to-Endでご支援させていただくことが、今回のアクセンチュアとしての大きな狙いです。

高崎 氏：どのようなメッセージを発信していくか、どうコミュニケーションしていくかというところが非常に大事になろうかと思いました。戦略とクリエイティブの掛け合わせができるアクセンチュアと一緒に、この新規事業を構築していきたいというような経緯に至りました。

Droga5 Tokyo シニアクリエイティブディレクター 杉山 元規：今回、最初の2030年ビジョンというのを立てるところから入ったんですけど、クリエイティブとしては言語化するというところ一番大きな役割を担ったかなと思っています。抽象的な部分をしっかりと見える化できるということで、みんなが同じ方向、同じ世界観に向かって事業を作っていくということもできるのかなと思っていて、それを本当に体現するために、実際にアクションに繋げていくという部分も大事かなと思っていて、「たんぱく質を、もっと自由に。」ということを言語化して、社内に対しても見せるし社外に対しても打ち出していくことで、アクションに繋がるワードとしてビジョンを設定したというのがあるので、何かを作って話題にするためじゃなくて、最初から、世の中に存在意義があるものを作っていく、そこがまさに、コンサルとクリエイティブが融合してやっていく意義があった部分かなと思います。

湯川 氏：新しい発想で弊社の想いというところもビジュアル化していただきまして、私達の想いをしっかりと伝えていただけるようなビジュアルであったり、中身というところに繋がったかなと思っております。

アクセンチュア株式会社 Accenture Song シニア・マネジャー 早川 豊晃：一番嬉しかったのが、事業化をするためのパートナーとしてアクセンチュア ソングを選んだっていうのが一番印象的なんですね。もちろんニッポンハムさんもそうですし、アクセンチュア ソングの中でもバックグラウンドの色々なメンバーがいるんですね。それぞれの領域で専門性を生かしてやっていこうというのは、結構最初の立ち上げのときから言っていました。

高崎 氏： 3つ目のエシカル事業でございますが、お肉の中でも使えない部位が発生してまいります。再利用といったことを、アップサイクル事業でありますとか、循環型農業みたいなところで、地球環境に優しいようなサービスということも展開していくといったようなことでございます。ニッポンハムの新規事業推進部としてですね、世の中をもっと便利にしたり楽しくしたりということが大きなミッションだと思っておりますので、今の既存の3つの事業以外にもアイディエーションしながら、新しい事業を生み出していきたいなと考えております。

早川：MeatfulもTable for Allもニッポンハムさんとアクセンチュアのメンバーの想いが本当に詰まったサービスになっているので、是非ですね、楽しんでいただきたいなというのがまず最初にあります。本当に困っている方、そういったところの需要にちゃんと届くように、認知も含めて広がっていけたらなと思っています。

Copyright © 2022 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo
are registered trademarks
of Accenture.